



BANSYU  
SICKLE  
since 1870

# 播州鎌



キンボシ 株式会社



播州地区（兵庫県小野市・三木市・加古川市・加西市・西脇市）を中心に生産されている播州鎌は全国の鎌の生産量の80%を占め、その歴史は古いと伝えられています。

明治維新後当地小野町一柳藩のお抱え刀鍛冶藤原伊助が剃刀の製法から応用して鎌を打ち始めたのが始まりであり、播州鎌を別名剃刀鎌と云われ、切れ味がよく、軽くて研ぎやすいと大変喜ばれました。

当産地は、このような伝統の技、学理と機械化の導入に成功したのに加え、鎌材料（利器材）の開発により品質や生産の向上かつ新しい技術の研究を積み重ねて着実に進歩しています。

## 伝統の技

### せんすき

銚（せん）という道具を用いて鎌の表を研削する剃刀鍛冶からの播州鎌独自の伝統技術です。

研磨した刃をさらに凹状に削る事により草ばなれがよく切れ味が向上します。



### 刃付け

鎌の刃部及び小刃（刃先）を適切な角度に研ぎ、最終の刃付けを行う。

やわらかい草用には緩やかな角度の鋭利な刃が、かたい草用に急な角度の鈍角な刃が適しています。

### 火造り鍛造

鍛造することで鋼の分子がよく切れる組織に変わりさらに不純物を取り除きます。

また切る部分は薄く、他の部分は厚くすることができ、切れ味がよく耐久性も出ます。

鍛造によって作られた鋼鉄は丈夫で長持ちすることから、古くから農具や包丁などの生活用品に活用されています。



### 焼入れ・焼もどし

鋼を変態点（組織の構造が変化するポイント）以上の温度まで上昇させ急激に冷却することにより鋼を硬くする事を「焼入れ」といいます。

焼入れによって硬くなった鋼はそのままではもろく、割れなどが生じやすい状態です。そこからさらに再加熱して硬さを調整しながら粘りや強靱性を高める事を「焼もどし」といいます。

# 鎌の種類と用途

草を刈り、稲を刈り、枝を払う……。鎌は農耕の発生とともに発明された収穫用農具です。古代から使用されているものだけに、地域や刈り取る物によって種類も千差万別です。使用用途に合った鎌を選ばないと効率の良い作業ができません。

また、外国の鎌は鋼だけですが、日本の鎌は日本刀や日本剃刀と同じ原理で鉄と鋼をつけたものです。鋭い切れ味が持続し砥石での刃付けが容易な、伝統の付鋼（つけはがね）技術が今日まで継承されています。

## 刈払鎌

草刈りから、山林の下刈作業等に払いながら刈ります。長い柄がついているものが多く、立ったまま作業ができます。

## 刃鎌

薄刃・中厚刃・厚刃と大別され、薄刃は厚みが薄く、やわらかい草を刈るのに最適な切れ味重視の鎌になります。中厚刃は薄刃よりもやや厚めで刃持ちがよく、かたい草を刈るのに最適です。厚刃は中厚刃よりもさらに厚く小枝や笹払いに最適です。又、包丁と同じように片刃と両刃があり、用途により使い分けができます。

## 除草鎌

地面に這った草を削りながら使用したり、細かな部分の除草作業に向けた小型タイプになります。

## 鋸鎌

刃部は鋸歯状になっており、稲刈り、麦刈りに適していて、優れた目立て技術で切れ味抜群です。最新の研究で多種多様な鋸刃をつけて用途に合わせた鋸鎌が出来ています。

## 収穫鎌

野菜の収穫に適した鎌になります。野菜の種類によって様々な形から万能型タイプがあり、用途に合わせてご使用できます。

## 左鎌

左手で使用する鎌になります。



# 刃の素材

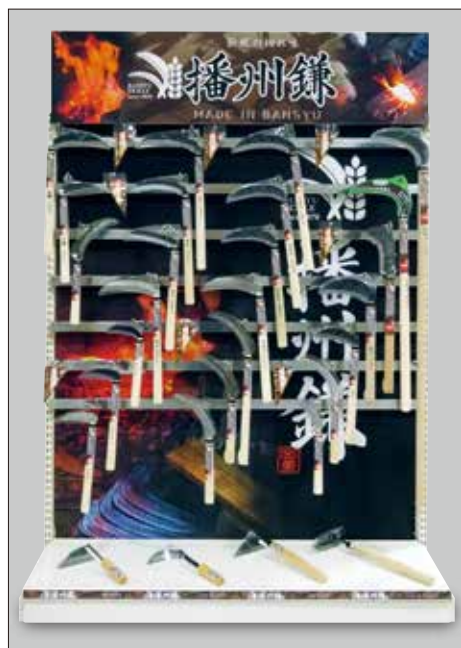
鎌の刃は様々な形のほかに、素材の違いもあります。主に全鋼、鋼付、ステンレス鋼に分けられ全鋼は加工性がよく比較的安価ですが、衝撃に弱く耐久性に劣ります。鋼付は切れ味に優れ、研ぎ直すことで長く使用できます。ステンレス鋼は錆びにくいですが切れ味はやや劣ります。

素材の特性や使用状況で使い方にあった物を選べます。



# 販促用品

## 売り場 棚割り例



## ゴンドラ上部 POP

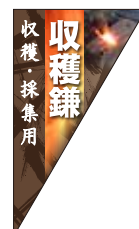
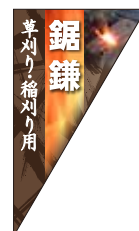
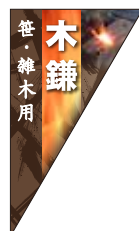
1200×300



900×300



## カテゴリ別 POP



70×120 (各種)

## 背面用ボード

1170×1500



870×1500



## ベース棚レール用帯

1200×64・1200×30・900×64・900×30

